

平成28年度（第1回）「千葉県安全性向上プロジェクト委員会」議事要旨

■ 開催日：平成29年3月15日（水）14:00～15:40

■ 場所：一般社団法人道路管理センター 千葉支部 会議室

■出席者

千葉工業大学 工学部 教授	赤羽 弘和（委員長）
千葉県警察本部 交通総務課	清水 貞（代理出席）
千葉県警察本部 交通規制課	澤口 修治（代理出席）
公益財団法人千葉県交通安全協会 事業管理課長	永棟 佐市
一般社団法人千葉県トラック協会	高安 茂
一般社団法人千葉県安全運転管理協会	鵜澤 邦彦
株式会社千葉日報社	松本 祥彦
千葉県県土整備部道路環境課	橋本 大義（代理出席）
千葉県環境生活部生活安全課	山本 功（代理出席）
千葉市建設局土木部	斉藤 平（代理出席）
国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所	八尾 光洋

■議事

（1）規約の改正

事務局より規約の変更について説明し、委員の変更について承認を得られた。

（2）議事

1) これまでの取組みについて

- 年齢別・交通事故死者数では、16～64歳は減少しているが、65歳以上の高齢者は増加傾向にある。特に高齢者の女性の免許保有率も高いため、今後も交通事故のリスクは高いと考えられる。
- 千葉県内の幹線道路と比べて、生活道路の死傷事故の絶対数が多いことは把握しておく必要がある。また今回生活道路を5.5m未満のセンサス区間以外も含めているため、生活道路での交通事故を細部に渡って認識できているため、今後のこのように整理してほしい。
- 事故ゼロプランの2巡目での死傷事故件数の削減目標を6,024件としているが、設定する目標値は数字を丸めた方が良いか。
- 設定する死傷事故件数の削減目標は、6,000件とすることが望ましい。
- 2巡目の事故ゼロプランにおける目標設定は「H32年度までに千葉県内の幹線道路における死傷事故件数を6,000件削減」とする。

2) 対策実施区間のフォローアップ結果

- 交通事故は偶発的かつ不定期に発生し得る事象であり、確率的な要因があることから、対策効果を分かりやすく表現するため、千葉県ではポアソン検定を採用している。これを実務で利用していることは評価できる。
- 対策実施区間の対策効果を示してあるが、未実施箇所についても同様に整理し比較できるとより対策効果が明確化できるのではないかと考える。
また、ポアソン検定以外にも事故内容にも着目し、重大事故に対する対策効果を整理していくことも重要と考える。さらに、事故対策によって交通の流れ（手前の抜け道への迂回など）が変わっている場合もあるため、ETC2.0などのビックデータを利用する場合は、対策箇所のみに限らずエリアとして評価していくことも必要と考える。
- 対策実施箇所と未実施箇所での事故特性を整理するのは有効と考える。

一般的な事故対策では、信号制御と幾何構造改良の組み合わせにより効果を発揮するとされている。今回紹介のあった対策事例では、事故の発生状況だけでなく、交差点通過時の走行軌跡に着目して対策前後で検証している点については評価できる。今後はさらに対策効果を分かりやすい表現方法で開示していくことで道路利用者に対しても事故対策の取り組みに対する理解が得られると考える。

3) 事故危険区間の更新について

- 対策実施後の評価を行い、毎年事故危険区間の更新を行われており、健全なマネジメントが行われていると言える。
- 今回提示されている H28 追加区間および H28 削除候補区間について承認する。

4) 今後の取り組みについて

- 対策予定箇所についての施工時期は既に決まっているのか。
- 現時点では対策実施時期は決まっていない。
- 国道 6 号南柏駅西口交差点は南柏駅が近いことから通勤通学の時間帯では横断歩行者が多くなることが想定されるため、現在予定されている停止線の前出しによる交差点のコンパクト化と合わせて、歩車分離の信号制御についても検討すると良い。
- 国道 16 号袖ヶ浦 IC 入口交差点は停止線の前出しができないか検討すると良い。
- 生活道路の対策エリアとして、千葉市稲毛区の山王町地区が挙げられているが、有識者の助言を受けるためにはどうすれば良いか。
- 山王町地区は対策エリアとして既に登録されており、今年度はビックデータによる分析結果の提供を行っている。要請があれば有識者の紹介を含めた技術的支援が可能である。

5) 道路安全監査(試行)状況

- 事故データやプローブデータ等のビックデータを用いた分析結果を活用しているが、こうした情報は対策検討において非常に有意義な判断材料となっている。こうしたデータ活用については事故対策において評価できる。